

# 特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所医務

## 平成 28 年度 事業計画書 (案)

今年度は、「活気ある職場づくり」を目標とし、入居者様の状態に合った個別性のある看護・介護を実践できるよう入居者様と関わる様々な職種間の繋がりを強め、又、看護スタッフ間もそれぞれの経験や知識を生かして、意欲的に個性を発揮できる職場づくりを目指す。

### 1. 入居者様・家族様を中心とした看護・介護を目指す

- (1) 相談員、介護士、栄養士と嘱託医、精神科医師、歯科医師、衛生士と連携を図り、入居者様の状態を正しく把握し、異常の早期発見対応できるよう、日常業務の中でいつでも看護師間の報告相談できる環境を確立し情報共有する。
- (2) 入居者様の家族様と来所される毎にどの看護師も積極的に関わり体調等の変化を細やかに伝え、家族様やご本人の意向や思いを受け止め、相談員や介護士と共有して入居者様の生活に反映できる看護・介護を共に考える。
- (3) 終末期に対する家族様の意向確認や相談、看取りケアの説明を、面会に来られる機会に、来所が難しい家族様へは電話連絡や郵送で最低でもひと月に 1 回、嘱託医、施設長、相談員と協働して発信していく。
- (4) 毎年確実にすすんでいる現在の利用者様の超高齢化、病状の重症化に対して、特養だけでなくショート・ロングステイの利用者様にも予測される事態を家族様に説明報告し終末期の過ごし方についてケアマネージャー、相談員・介護士と共にどのように対応、受け入れをしていくのか方向性を考えていく。
- (5) ショートステイでの様子をケアマネージャー、デイサービスへも積極的に発信し継続看護・介護を行う。

### 2. 安心、安全、安楽に過ごしていただける看護・介護を目指す

- (1) 入居者様の身体・精神状況、病状の進行状況等を相談員、介護士、栄養士と共に常に正確に把握し、アセスメントした上で必ず評価を行い再アセスメントする習慣を身につけるシステム作りをし、緊張感・危機感を持って事故防止に努める。
- (2) 前年度は褥瘡、皮下出血、表皮剥離等皮膚の損傷が多発した為、相談員や介護士と協働して発生の予防に努める。
- (3) 相談員、介護士、栄養士と具体的に速やかに正確に情報共有し対応できるツール・習慣を確立する。ひと月に 1 回リーダー会議にどの看護師も順番にひとりずつ参加し共に具体策を考えていく。

(4) 医療的ケア(胃瘻)について5月より、対象の介護士に伝達、随時業務の引き継ぎをおこなう。

(5) 感染対応に対して、地域包括、保健所、役所への報告や相談・情報提供を受ける事で正確な情報得て、各部署へ発信、啓発する。

3. それぞれの看護師がやりがいを持って働ける職場を目指す

(1) 2ヶ月に1回を目標として外部研修に参加できるよう計画を立てる。

(2) ケアステーション内の物品整理を行い整理整頓し看護師間で相談して機能的で気持ちよく働ける環境づくりをする

(3) それぞれの得意分野、興味のある分野を考慮した、委員会、係りを分担して役割を担う。

以上